
阿部君はスイースベンガギャグアリア星人

田中週伍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

阿部君はスイー スベンガギャグアリア星人

【Nコード】

N2677Y

【作者名】

田中週伍

【あらすじ】

自称宇宙人と他称宇宙人との対話、という名の攻防。

更新未定。と思っていたのですが、予定が立ったので更新していく所存です。

他称宇宙人の悲劇

「ありえない」

「……まだ、何も言っていない」

「何も言っていないなくても、大体わかるっつの」

「ふっ、俺の心が読めるとは、さすがモニユルメット又ルングル星人だ！」

「いや、だから、違うって言ってるじゃん。ほんと、やめてくれな
いかな。人を変な名前の星人で呼ぶの」

「本性がばれたからって、照れなくていいじゃないか。正直になれ、
モニユルメット又ルングル星人」

「私これまでもこれからも、ずっと正直ものだから。正直に言っ
て、地球人だから。そんな奇怪な名前の星人になった覚えはないから」

「それだけの特徴をそろえておきながら、否定するだと！？それこ
そありえないな。いいか、謙遜もほどほどにしないと、地球人さん
達に怒られるぞ！！」

「特徴って何。私、他のみんなと何がそんなに違うってのよ！？だ
いたい、地球人っていうのが謙遜ってどういうことよ。あんたの中
でモニユなんたら星人ってどういう位置づけなわけ？返答次第では、
私を含めた地球人全員が怒るわよ。で、今の伝わってなかったら困
るから説明するけど、私、さりげなく自分も地球人だとアピールし
てんだからね。分からなかった時のためにもう一度言っつわよ。私は
地球の人ですよ。なんだったら、DNAでも調べる？確実に地球人
類の配列出るから。それともさ、これって全部冗談で、なんちゃら
星人って呼ぶのは、遠まわしに私を貶すためのの？もしかして、も
しかしなくても、いじめ？私、いじめられてるの？やだ、ちよつと
誰か、先生呼んできて！速攻でこいつにいじめられているってちく
つてやるから！！」

「落ち着け。トークがマシンガン過ぎて8割聞き取れなかったぞ。まあ、でも2割は聞き取れたわけだが、その聞き取れた2割に対する答えならば、別の星の出身だからっていじめるような地球人はクズだ」

「くそ耳が、これっぽっちも聞き取れてないっての！！私は、あなたに、いじめられてんのよ！」

「心外だ。いじめてなどいない。友好を深めようとしているだけだ。それと、俺は『あなた』じゃない」

「私も、なんちゃら星人じゃない」

「モニユルメツト又ルングル星人だ」

「それ！じゃない！！」

「……まあ、いい。仕方ない。いつか心を開いてくれるまで、待つ」

「まだ言うか、あなたは」

「あんたじゃない」

「ああ、すいませんね。阿部君でしたね」

「実は阿部とは仮の名だ、本当の名は」

「もういいです。勘弁してください。阿部様」

「俺の本当の名は」

「うわーん！！誰か助けてよー！！」

他称宇宙人の悲劇（後書き）

阿部（仮）君が自称スイー スベンガギャグアリア星人であるということ
を本文中で言明していないのは、わざとです。ということにして
おいてください。

地球人、自称宇宙人と遭遇す（前書き）

登場人物は、4人です。

と、先にお伝えしておきます。

地球人、自称宇宙人と遭遇す

「ねえ、ひかるがこの間言ってた先輩さー」
「なにになー。何の話？あたしも聞きたーい」
「え？ああ、ひかるが格好いい先輩がいるって言ってたさ」
「なにそれ、だれ？2年、3年？」
「3年のアベ先輩だよー」
「だれ？知らない」
「写メあるよーみる？」
「見る見る」
「待ってー、いま出すからー……。はい、これだー」
「おおー、右の人？へえ、確かにかっこいい？って、ぶれててよくわかんねえし、コレ」
「だってー隠し撮りだからー。これでも一番いいやつなんだよー」
「隠し撮りかよー！」
「そうだよーズーム最大だよー」
「そういえば、この間見せてもらった時から気になってたんだけど、隠し撮りって犯罪じゃないの？」
「えーうそー！犯罪なのー？どうしよーこっこちゃん。わたし、捕まっちゃうかもー」
「どうしよーってそりゃあ、捕まんじゃね？逮捕だ逮捕。さようならだね、ひかるっちゃん」
「やだー」
「じゃ、消せばいいよ？証拠隠滅」
「えーそれもやだーせっかく撮ったのにー」
「ぶれぶれなのにか」
「ぶれてても、かっこいいもん！」
「そうかあ？」
「こっこちゃんも生で見たらいいんだよー、そしたらわかるからー。」

で、みゆちゃん。そのアベ先輩がどうしたのー？」

「都合が悪いからって話ずらしたなあ」

「ちがうよー、元に戻したんだよー」

「ん？ああ、なんだっけ……あ、思い出した。ウチの部活の先輩がさ、アベ先輩と同じクラスらしくてどんな人が聞いてみたんだ。そしたら『アベは、変人だね』だって」

「変人？」

「うん。1年のころから、自分は宇宙人だって主張しているらしいのよ」

「なんじゃそら」

「自分を宇宙人だと思っているんだって、真剣に。その上、3年になつてから、同じクラスの別の先輩のことも自分とは違う星だけだ、お仲間の宇宙人だと言つてからんでるらしいよ」

「うわあ」

「なんだー。それ、もう知ってるー」

「知ってたの？」

「うん。スイー スベンガギャグアリア星人とモニルメットヌルン
グル星人でしょ！」

「スイ？モニユ？」

「アベ先輩がースイー スベンガギャグアリア星人でー、もう一人の
先輩がーモニルメットヌルングル星人なんだよー」

「……全然、聞き取れないんだけど。みゆう、やばい。ひかるが変
なことをさらつとゆう」

「大丈夫。元からそうだから」

「そっか、ならいつか！」

「2人とも誤解してるよー！さらつとじゃないんだよー！！紙に書
いて覚えたんだよー」

「なおさらやばいって」

「私も、紙に書いてまで覚えるのはどうかと思う」

「いや、俺はいいと思う」

「うわあー!!」

「!？」

「あーアベ先輩!!」

「な、なんで……?」

「声が 誰かが、スィースベンガギャグアリア星人って言ったのが聞こえたから」

「あー、それわたしですー」

「君か」

「はい」

「……あれほど正確に発音ができるから、もしやと思ったが、残念だ。君は地球人か」

「わかるんですかー?」

「明確に違う」

「へー。じゃあ、この2人はどっちかも、もうわかっちゃってるんですかー?」

「地球人だな」

「そっかーみんな地球人かー」

「がっかりすることはない。大体みんな地球人だ」

「ですよー」

「……」

「……」

「あーそっだー。先輩、今日の記念にー写メ撮らせてくださいーい」
「構わないが、多分きちんと写らないぞ」

「えー?どうしてですかー?」

「どう撮ってもぶれるようになってる。体質的に」

「なにその体質」

「こっこ」

「だって」
「シッ」

「2人ともどうしたのーこそこそしてー？」

「何でもない！気にしないで」

「そうそう。あつと、そうだ。よかつたら、あたしが2人を撮ろうか？」

「えー先輩いいですかー？」

「ぶれてもいいなら」

「わーい。ぶれてもいいですーすーこつこちゃん、よろしくー」

「はいよー……ひかる、もう少し寄って。それくらいかな。いくよーはい、ピースと」

「ありがとー」

「……うん。まじでぶれた」

「ほんとー？」

「うそでしょ？」

「ほら」

「……本当だ。ひかるはちゃんと写ってるのに」

「すごい。先輩、もう一枚いいですかー？」

「何度やっても同じだぞ」

「えい！つて、わーぶれてるー。もう一度！えいや！あーまたぶれてるーなんでー？」

「体質だからな」

「こまつた体質ですねー」

「そうだな。出来るなら、きちんと写りたいものだな」

「もう一人の、モニユルメットヌルングル星人の先輩もぶれるんですかー？」

「いや、あいつはちゃんと写る」

「星人によっても違いがあるんですねー」

「だ
な」

「ねえ、みゆっちゃん」

「何？」

「あたし、帰りたいや」

「うん」

「甘いもんも食べたい」

「あんまんでも買って帰ろ」

「うん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2677y/>

阿部君はスィースベンガギャグアリア星人

2011年11月10日02時29分発行